



岡崎ホスピスケアを考える会通信

2004 年 3 月

24 号

事務局：橋詰 0564-53-3100 小野 0564-24-8518 URL <http://www1.ocn.ne.jp/~hospice/>



来年度に向けて

「岡崎にホスピス緩和ケア病棟を」

私たちの会の目的は、「いい人生だったね」と言える今を生きることです。これまで7年間、告知、延命治療や意思表示書について学び、遺言を書き、死を受け入れてどう生きるかのシリーズでは自分自身へのホスピスケアをしてきました。そして、2003年度は「連携」をテーマとし、開業医、病院医、ホスピス医、看護師、ヘルパー、ボランティアの方たちと連携をとりながら、この会に関わっていただき勉強会を重ねてきました。今、愛知病院では緩和ケア病棟の申請を出され、岡崎市民病院には「緩和ケアを考える会」が発足したことを知りました。ようやく、岡崎にもホスピス緩和ケア病棟を、という風が吹き始めた気配を感じています。

2004年度のテーマは「岡崎にホスピス緩和ケア病棟を」にしたいと思います。私たちの街で市民と医療者みんなで勉強しながらそれぞれの夢を語り、ホスピス緩和ケア病棟を立ち上げていけたら・・・と願っています。
(橋詰)

◆ 案 内

勉強会

4月17日(土) 10時～12時 竜美丘会館501号室 名古屋テレビ放送代表取締役専務 中林良夫氏
「ホスピスケアの原点」＜私が大切にしていること＞

5月7日(金) 10時～12時 竜美丘会館4階和室(福寿・蓬萊)「アロママッサージ」
国際病院ホスピス加藤元美看護師・ホスピスボランティア田中淑美さん
※オイル1瓶2,500円(実費)が必要です。定員30名のため、住所、氏名、電話番号を記入の上はがきで申し込んでください。締切りは4月17日、多数の場合は抽選。
抽選の結果は電話で連絡します。宛先：〒444-0823 岡崎市上地5-22-13 橋詰清子

6月26日(土) 10時～12時 竜美丘会館501号室
「ホスピスで終末期を過ごした患者の家族の話」

手縫い(毎月第2火曜日) 場所 県立愛知病院機能訓練室

4月13日(火) 10時～12時 5月11日(火) 10時～12時 6月8日(火) 10時～12時

つどい(毎月第2木曜日) 場所 アプラザ 岡崎勤福社会館 今年度から第2木曜日になりました。

4月8日(木) 10時～12時 5月13日(木) 10時～12時 6月10日(木) 10時～12時

◆ 「ホスピス緩和ケア病棟」のアンケートから頂いたお便り

私は39歳の時、乳がんになりました。そのときのショックは大変なものでした。幸い、こちらの会に参加する機会があり、家族の助けもあってだんだん元気になりました。入院・手術・その後の体験からお医者さんの何気ない一言が患者にとって、とても影響があると思います。一寸した笑顔やジョークで救われたりします。こちらの目を真直ぐに見て真剣に話してもらえると、それだけでも病氣と闘う勇気が出てきます。精神的ケアがどんなに大切か！検査の時もドキドキしています。技術的なことは勿論大切ですが、一人の人間として尊重してもらっている、とこちらが感じられるような、そんなお医者さん、看護師さん、ヘルパーさん、受付の方、売店の方を希望します。病院でのお仕事は本当に大変だろうと思いますが、患者の前では明るく、笑顔で、優しくお願いします。本当にそれだけでも全然違います。会員になって本当に良かったと思っています。



1月の勉強会報告

「家族ができる心のケア」＜癒されて旅立ちたい＞
沼野尚美 神戸六甲病院緩和ケア病棟チャプレン

1月17日（土）

アイプラザ岡崎勤労福祉会

病院で経験された豊富な話に思わず引き込まれて聴きました。ホスピスが絶対ではなく、選択肢の一つ、といわれた言葉が印象に残りました。当日いただいた感想文の中にも、心に残ったたくさんの言葉が書いてありました。また今回は初めて癒しのコンサートとして歌とハープとマリンバの演奏を行いました。いかがだったでしょうか。



〔感想文から〕

- ・チームワークが大切であること、人を愛することによって、コミュニケーションが大切であることも分りました。アイスクリームのことで、看護師さんが「一緒に食べて下さって有難う」と言われた講話を忘れないようにします。
- ・人と人のお付き合い、患者とケアする人の言葉や態度は十人十色で大変困難な問題だと思いました。真心と愛を持って柔軟に行動することが必要だと思いました。アイスクリームの話を聞きながら一年前死ぬ間際の友人の枕元でコーヒーの香りを匂わせてあげながら涙して飲んだ事を思い出しました。
- ・心のあり方が一番大切だとつくづく思いました。「あなたが傍にいてだけでなごむ」大好きな言葉。一人でも多く「あなたと一緒にいると楽しいわ」と言ってもらえる人生にしていきたいと思います。
- ・「今、この人と共に生きる為に私は何が出来るか」考えられる人になって欲しい。とても心に残りました。（重い言葉ですが）個々人が全く違った関わりが出来て一人一人が自分なりに方法を見つけられる可能性があるという心強さを感じました。
- ・「存在感のあたたかさ」「あなたは一人ぼっちではないよ」日々意識して生活していきたいです。
- ・緩和ケア、ホスピスはいくら勉強しても終わりがなくいつも迷いながら、苦しみながら仕事をしています。しかし、患者、家族の身になり考え、ケアをしていきたいといつも思っています。
- ・本日は講演だけでなくハープ演奏もありとても癒されました。ありがとうございました。



◆報告

“手縫い”の報告

愛知病院・市民病院・国際病院などに毎月雑巾などをお届けしています。

0さんは83歳のおばあちゃん。ご高齢ではありますが、ほとんど毎月この会に出席して、丁寧に雑巾を縫ってくださいます。1月の手縫いのできごと。0さんがヤクルトを1本ずつ配ってくださり「今日は私の誕生日、だから一緒に飲んでください」とひと言。本当は私たちがお祝いしてあげるべきなのに、ご自分の喜びを私たちにも分けてくださった0さん。こんなほのぼのとした雰囲気の中で雑巾を縫っています。皆様もどうぞお気軽にご参加ください。

いただいたヤクルトの味はとてもなつかしく、あまーいものでした。

（服部）

“つどい”の報告

患者・家族・遺族の集まりです

つどいに参加されても、何も話さないで帰られる方がいます。「これでいいのかなあ」と心配していたら、「落ち込んだときにつどいに来て、他の人の話を聞いていると元気が出てくるんだ。だから何も話さなくてもいいんだよ。」「今痛みが出てきて戸惑っているの。今まで無かったからね。もう少しすると、痛みと上手に付き合えるようになると思うんだけど」という方もいます。

運営で迷ったりすると、数年前に行ったビハーラ（長岡西病院緩和ケア病棟）の谷山さんという仏僧の「くずかご論」話を思い出します。「傍にいて悩みを聞くだけ。私はくずかごになるだけなのです」。

つどいでお世話になっている元愛知大学教授の木村先生には、来年度秋からご参加いただけます。日程は通信でお知らせします。

（難波）

◆運営委員会からのお願い

2004年度の会費納入をお願いします。3月の総会に欠席された方には振込用紙を同封します。

